

2012年3月期 業績予想説明会資料

2011/6/8

©株式会社日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 久田 眞佐男

2012年3月期 業績予想説明会

I 2012年3月期 経営方針

II 2012年3月期 業績予想

I

2012年3月期 経営方針

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。

企業ビジョンの実現 「ハイテク・ソリューション事業におけるグローバル・トップを目指す」

1. 成長分野へのリソースシフトと新ビジネスモデルの創出
2. グローバル事業の強化による高収益構造への転換
3. 次期成長に向けた強固な経営基盤の構築
4. 連結経営の深化とキャッシュ・フロー経営の強化
5. CSRを意識した経営の推進と人財の計画的育成

日立ハイテク那珂事業所・(株)日立ハイテクマニファクチャ&サービス 復旧状況および復興計画について

1. 建屋復旧状況

- 5月6日に全職場の移設・立ち上げを完了
- 2008年度から推進している耐震・モノづくりの整備計画を変更。
総額約50億円の追加投資により、新建屋の建設、生産の効率化と
能力の向上を促進

2. 生産立ち上げ状況

6月までに各ラインの生産能力およびロジスティクス機能を増強し
7月からの増産に対応

サプライチェーンの状況

サプライチェーンの状況は日を追って回復。市中品の確保や代替品の評価等により、更なるリスク低減を推進中

電力供給問題への対応

- 日立グループの休日輪番、夏期休暇分散への参画および当社独自の節電対策と合わせ15%節電(*)に取り組む予定

(*)東京電力および東北電力管内における昨年の使用最大電力値の15%以上
(対象期間:東京電力管内 2011年7月1日~9月22日、東北電力管内 2011年7月1日~9月9日)

- 自家発電導入については、法令上の課題等への対応を含め、BCPの観点から今後も継続検討

Ⅱ

2012年3月期 業績予想

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。

2012年3月期業績予想(ハイライト)

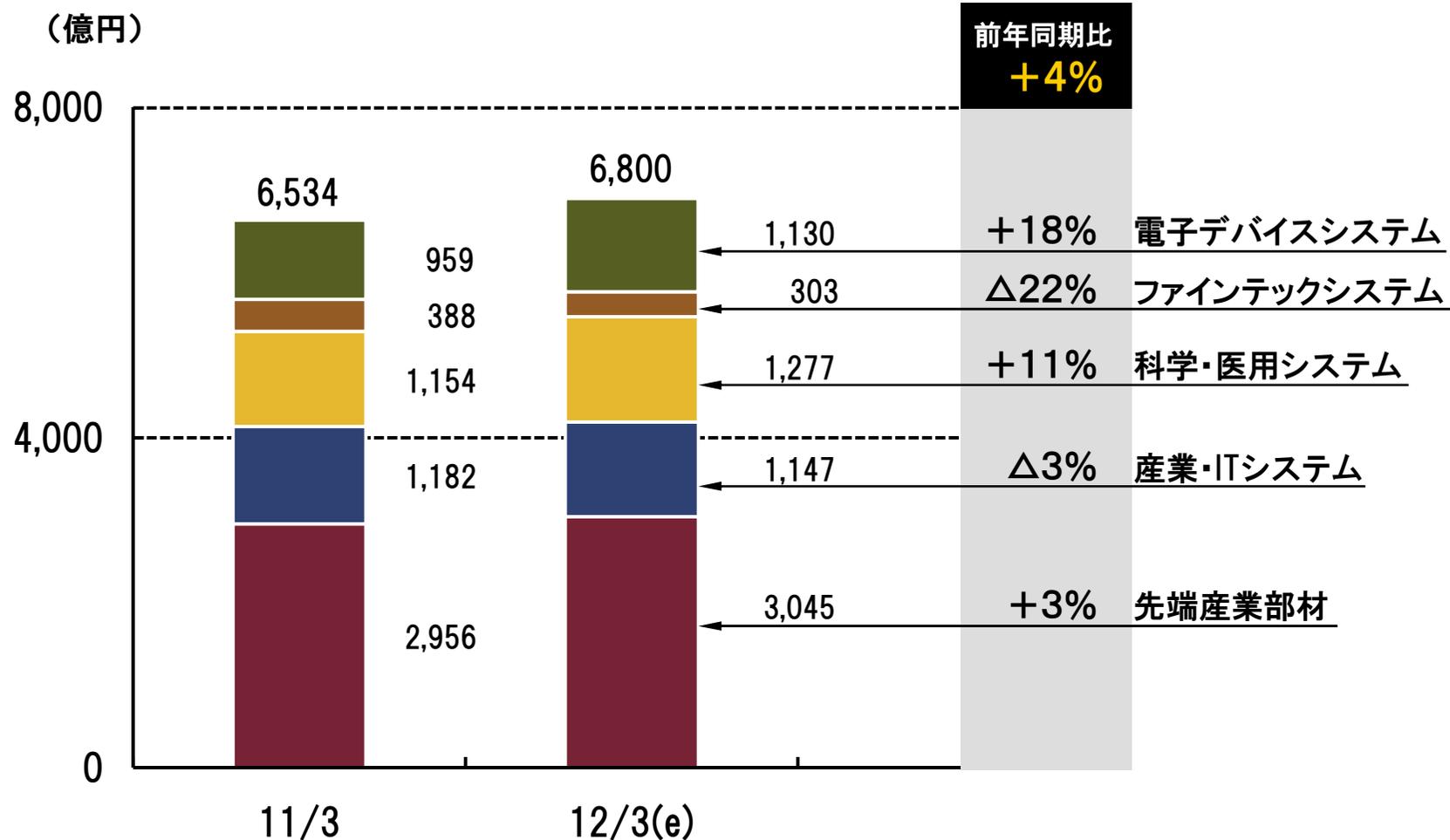
(億円)

| | 当年度予想 | 前年度実績 | 前年同期比 | |
|------|---------|---------|--------|-----|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 6,800 | 6,534 | +266 | +4% |
| 営業利益 | 280 | 279 | +1 | +0% |
| 経常利益 | 280 | 295 | △15 | △5% |
| 当期利益 | 180 | 178 | +2 | +1% |
| 一株利益 | 130円87銭 | 129円07銭 | 1円80銭 | |
| 一株配当 | 20円00銭 | 20円00銭 | ±0円00銭 | |
| ROE | 7.2% | 7.5% | △0.3% | |
| FIV | +44 | +59 | △15 | |
| FCF | +150 | +221 | △71 | |

(注)想定レート: 1USD=80円
1EUR=115円

2012年3月期業績予想(セグメント別売上高)

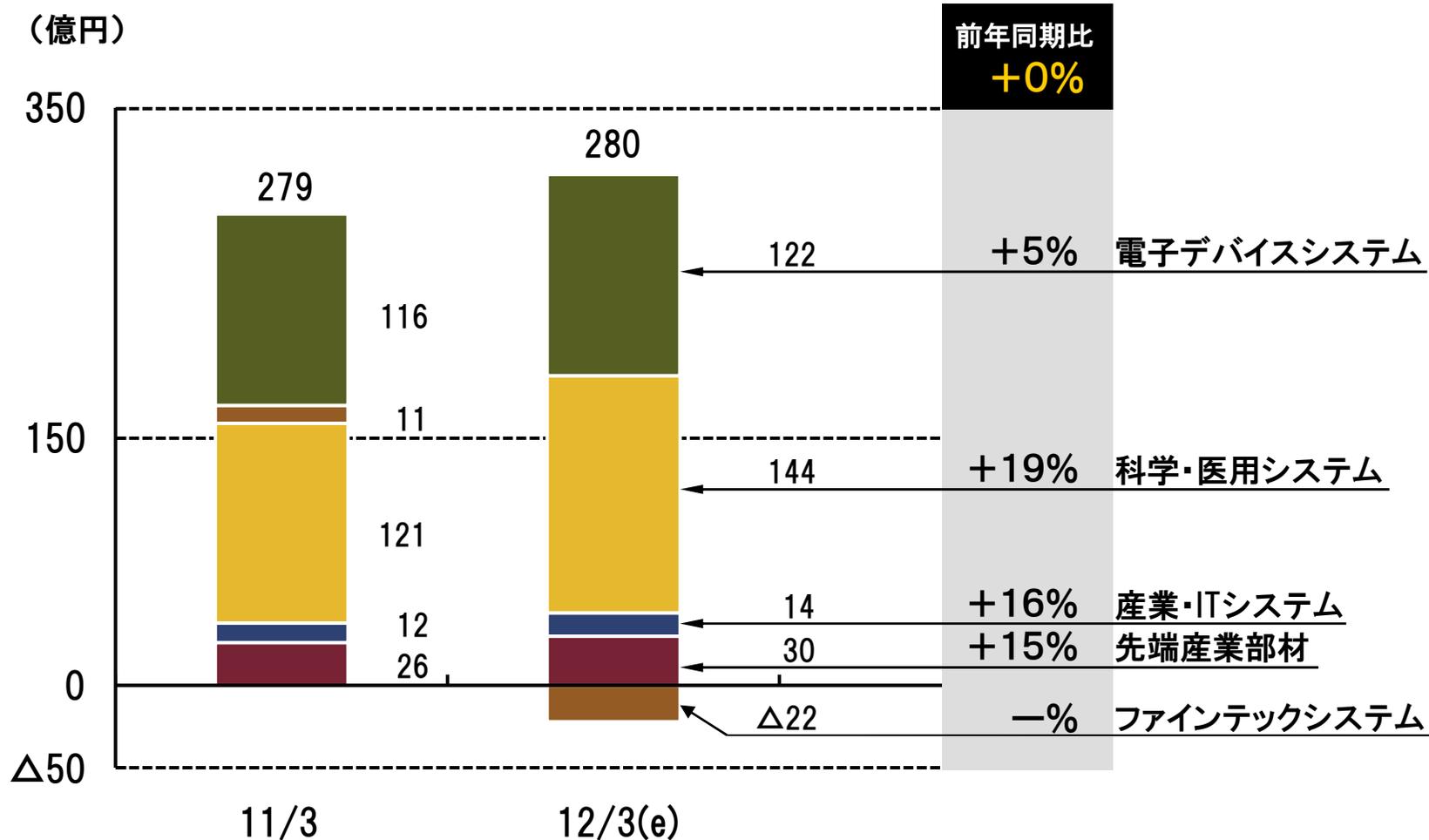
売上高



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

2012年3月期業績予想(セグメント別営業利益)

営業利益



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

11年度事業環境と当社の対応

半導体デバイス市場

- スマートフォンやタブレット端末などのモバイル関連機器の好調により、11年度の半導体デバイス市場は6%前後の堅調な成長を見込む
- 11年度もNAND、MPU、ASSPとも成長の見通し。DRAMは10年度後半からのPC需要の低下により△10～15%のマイナス成長を見込むも、モバイルDRAMの需要は好調
- 東日本大震災の世界市場全体に与える影響は限定的

半導体製造装置市場

- 市場全体では10年度4Qまで7四半期連続のプラス成長
- 11年度は約7%の市場成長を見込む。10年度後半の積極投資の影響で11年度設備投資は後半追い込み型と予測
- 最先端ロジック、MPU、NAND(2Xnm)の量産移行への投資が進みMPU、NANDメーカーおよびファウンドリ中心に新規ファブ建設予定

実装装置市場

- 11年度は中国市場を中心に台数ベースでは増加するも、ASP下落により金額ベースでは10年度同等規模を見込む

2012年3月期業績予想(電子デバイスシステム)②

半導体デバイスの微細化動向について

半導体デバイス・プロセス技術への要求

スマートフォン・タブレット端末などモバイル関連機器が半導体技術を牽引

- ・微細化による一層の小型化・実装面積の縮減
- ・低電力化によるバッテリー消費の抑制(表1)

次世代トランジスタ技術の動向

- ・微細・低電力実現のため、現在主流のプレーナー型トランジスタから低電力デバイス構造である立体型トランジスタ(FinFET*)へ
- ・微細加工にはダブルパターニング(DP)を適用

当社の先端半導体プロセスへの対応

- ・FinFET用高精度エッチング技術の確立
- ・DP用高精度計測技術の確立
- ・先端デバイスメーカーとの開発段階からの協業
- ・微細化に対応し、微小欠陥検査技術の確立

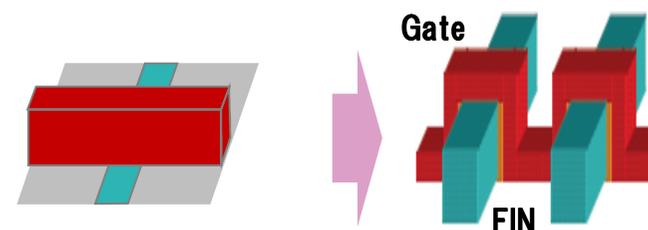
*FinFET…Fin-type Field Effect Transistor

表1 消費電力のトレンド(ロジック) 2011年度比

| 年 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 |
|------------|------|------|------|------|------|------|
| ITRS 2009版 | 1 | 0.94 | 0.90 | 0.84 | 0.76 | 0.72 |
| ITRS 2010版 | 1 | 0.94 | 0.68 | 0.56 | 0.54 | 0.46 |

ITRS: International Technology Roadmap for Semiconductors

微細・低電力プロセス確立



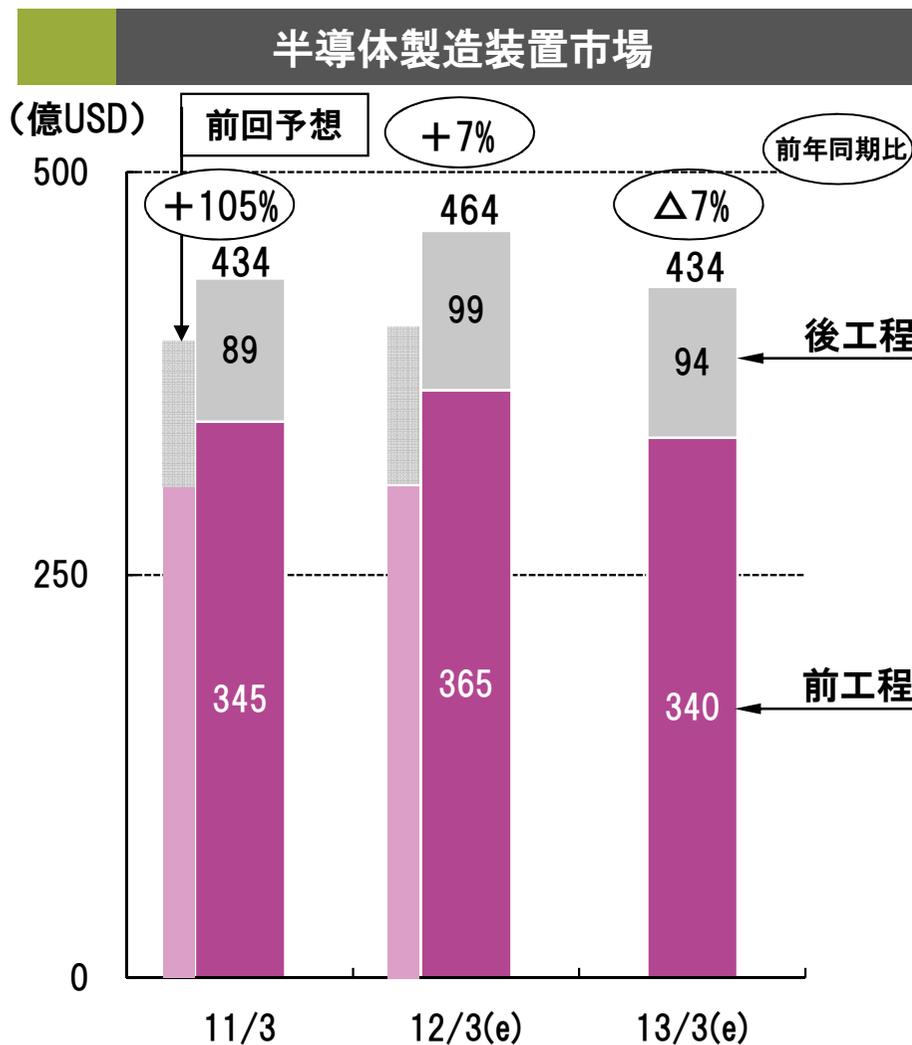
〈現状〉
プレーナー型

〈今後〉
3D(FinFET)

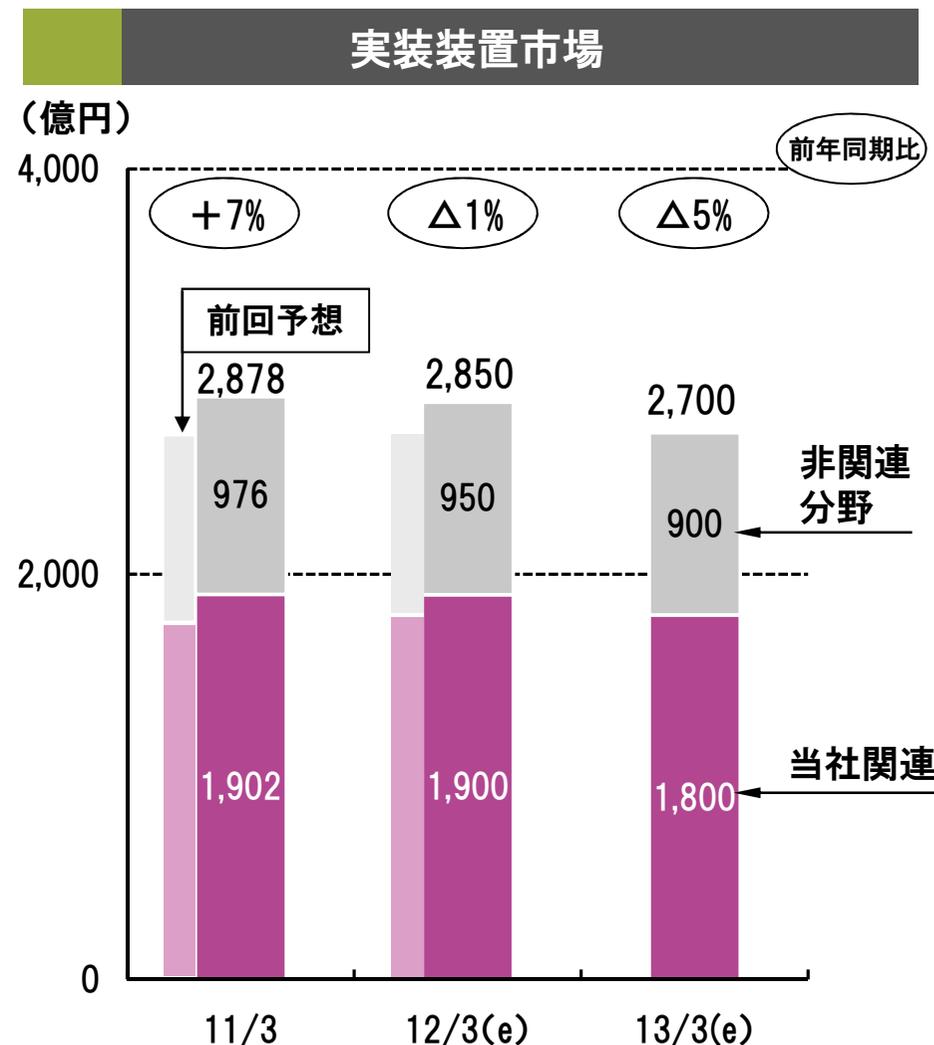
表2 素子分離～ゲート工程数比較(当社推定)

| | プレーナー型 (従来構造) | FIN型 (立体構造) | 3Dトランジスタ導入 により当社対象 市場の規模拡大 |
|-------|------------------|----------------|----------------------------------|
| エッチング | 8 | 10 | |
| 計測 | 14 | 16 | |

2012年3月期業績予想(電子デバイスシステム)③



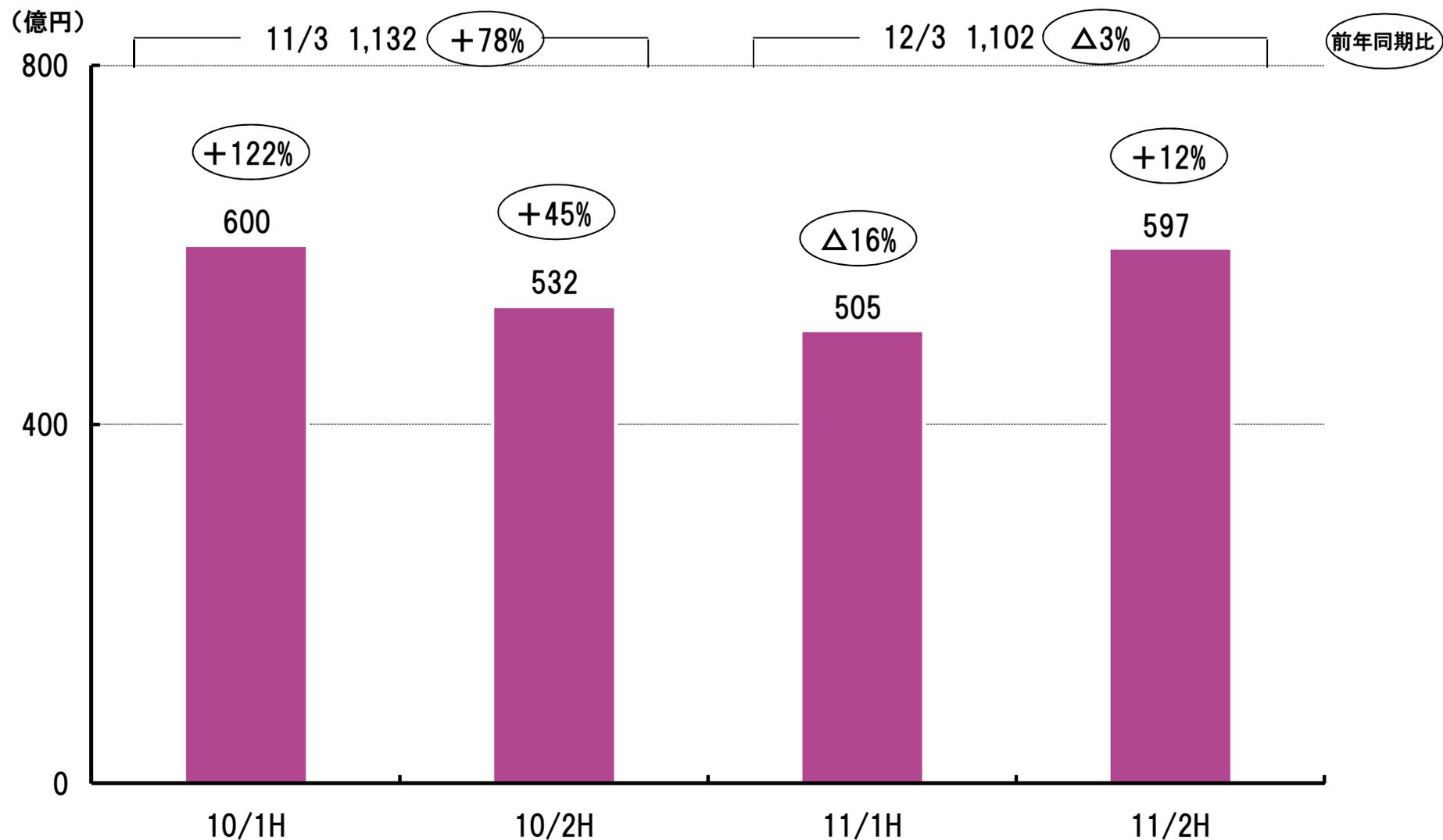
(出所)Gartner(11年3月)に基づき当社作成
前回予想は10年10月の11年3月期2Q決算発表時の見通し



(出所)日本ロボット工業会資料(11年5月)調査機関資料に基づき当社作成
前回予想は10年10月の11年3月期2Q決算発表時の見通し

2012年3月期業績予想(電子デバイスシステム)④

受注高の推移

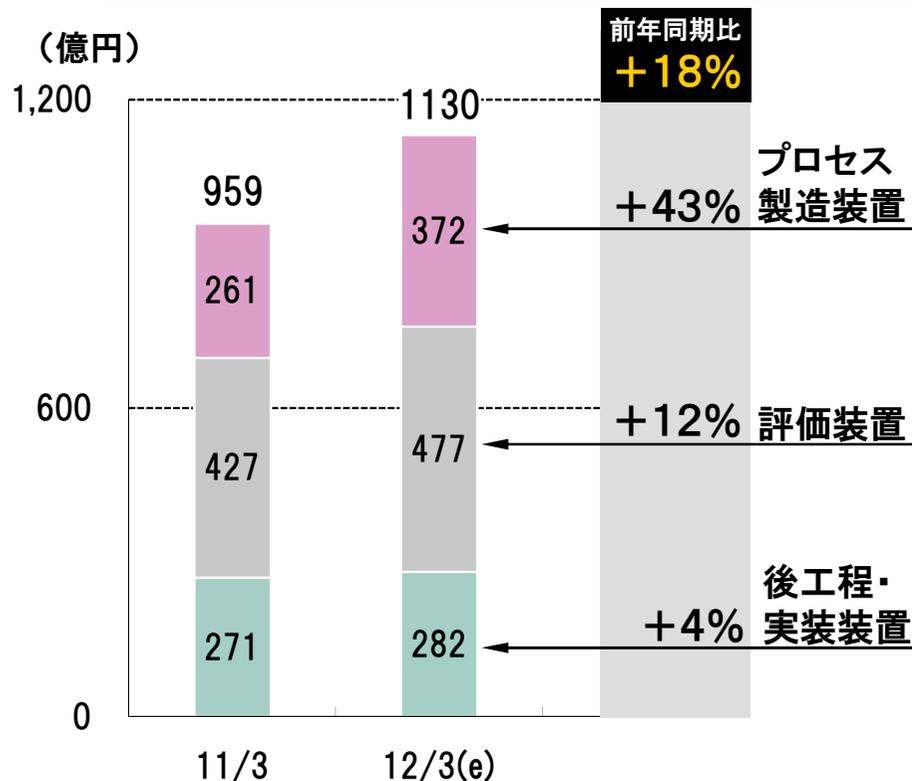


2012年3月期業績予想(電子デバイスシステム)⑤

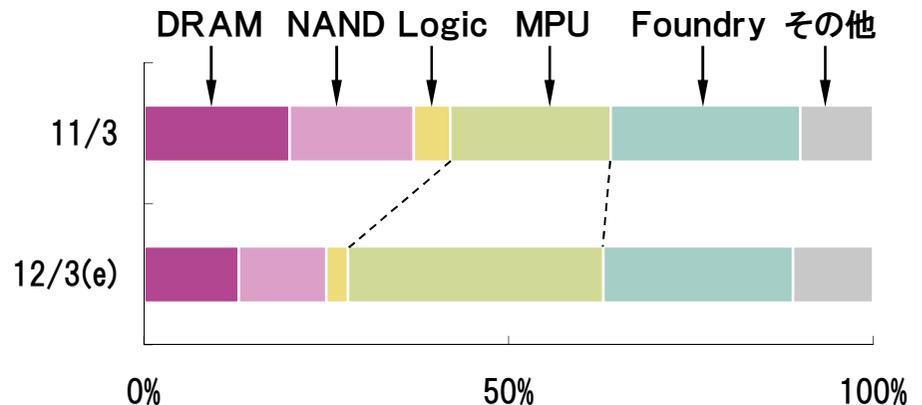
11年度基本戦略

1. 主力製品の売上拡大と新製品の市場投入による顧客数拡大
2. マーケティングの強化とグローバル展開による成長戦略の実行

主要製品群別売上高の推移



前工程装置 分野別売上高比率



10年度: 前半はメモリー関連で大型投資あり。
ファウンドリでも大型投資が継続

11年度: MPUの積極的投資により比率上昇、
ファウンドリも引き続き堅調

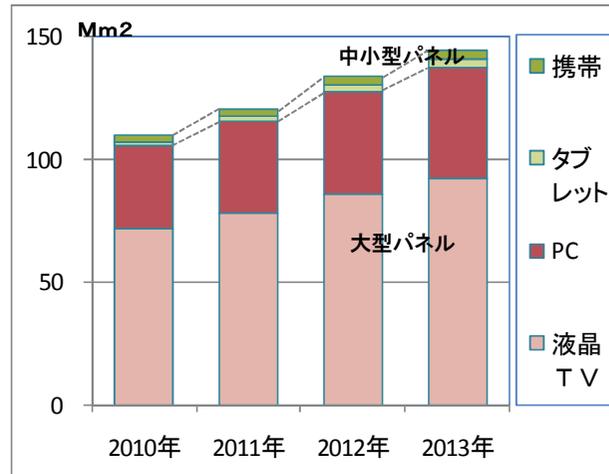
2012年3月期業績予想(ファインテックシステム)①

11年度事業環境

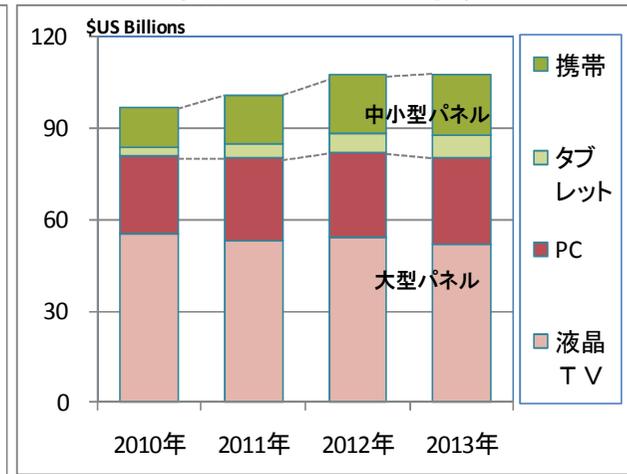
FPD業界動向

- ・大型パネル市況の悪化による中国投資の遅れ
- ・中小型関連(モバイル・タッチパネル)市場が好調

液晶の面積ベース市場



液晶の金額ベース市場

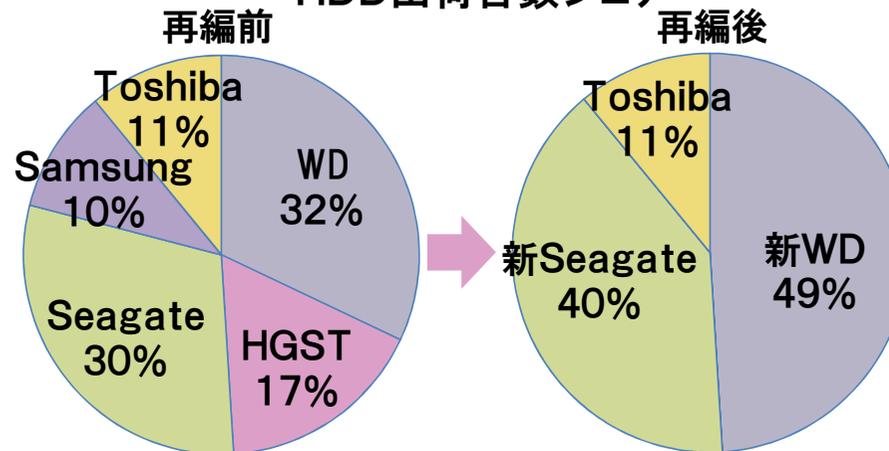


出所: DisplaySearch

HD業界動向

- ・業界再編により市場環境が変化
- ・WDによるHGST買収 (2011年10-12月期)
- ・SeagateによるSamsung HD事業買収(2011年12月)

HDD出荷台数シェア



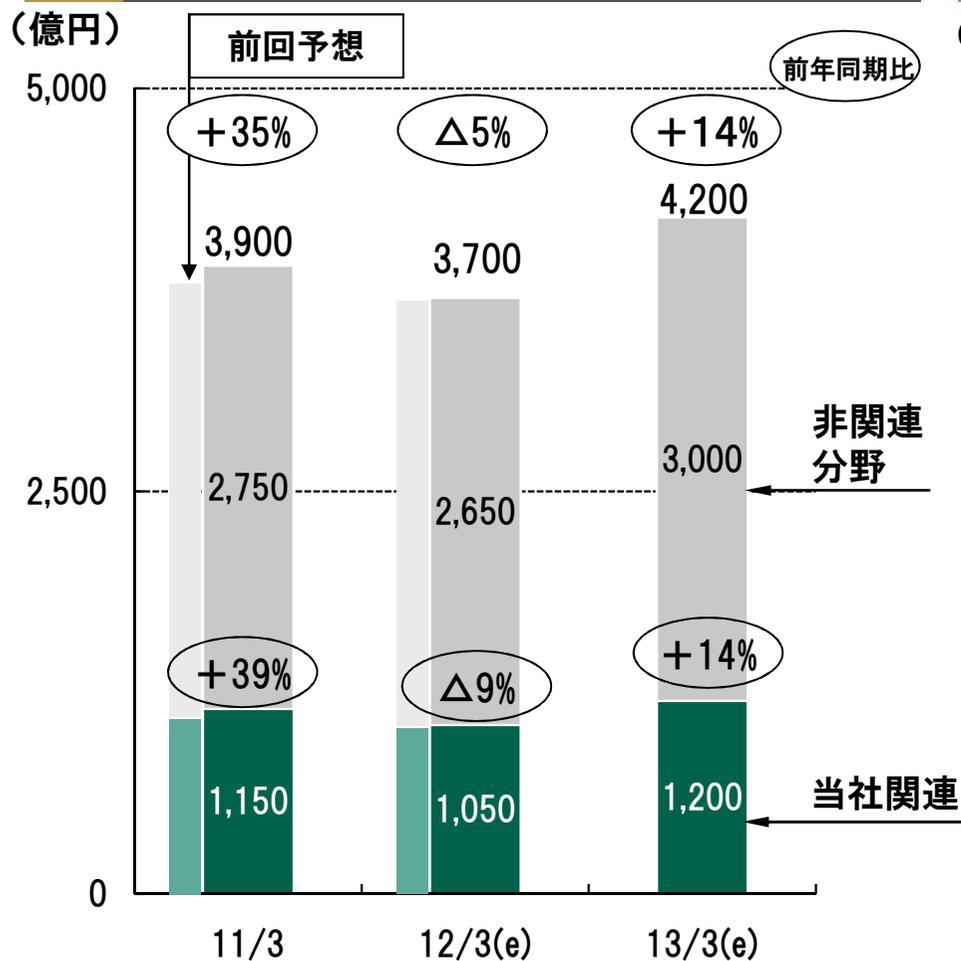
出所: インフォメーションテクノロジー総合研究所 シェア(CY2010)

シェア変動の可能性

Copyright©2011HitachiHigh-TechnologiesCorporatio nAllRightsReserved.

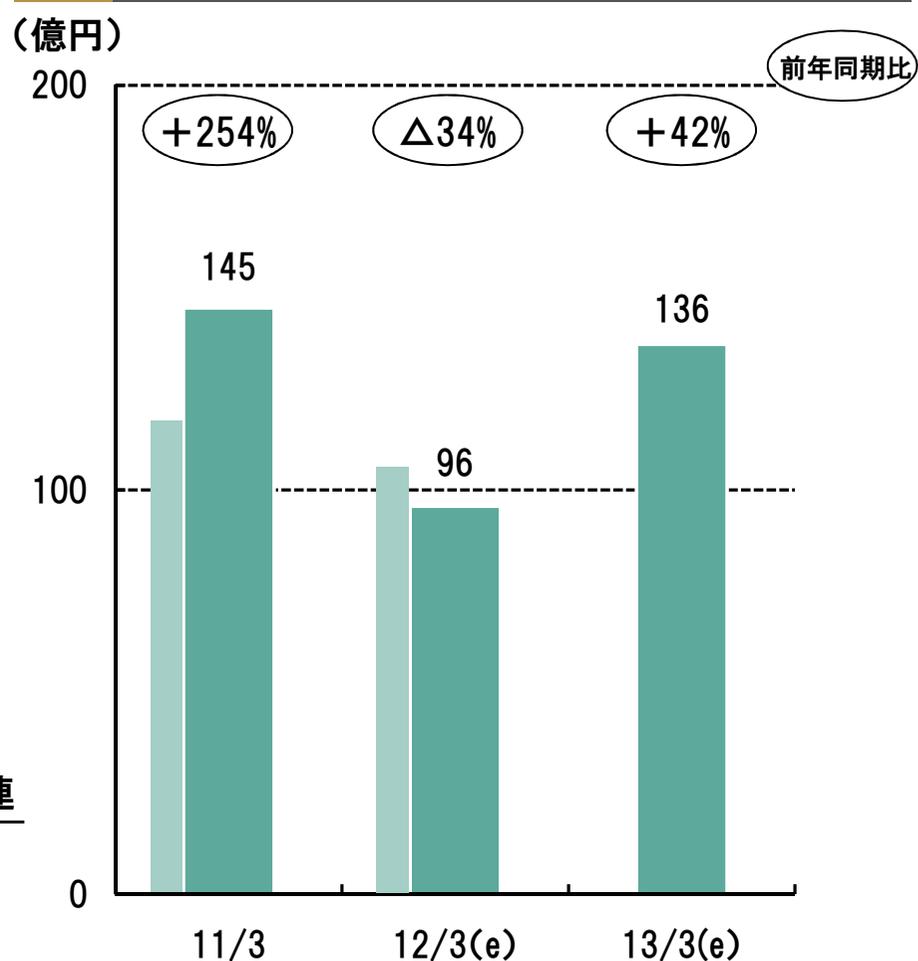
2012年3月期業績予想(ファインテックシステム)②

液晶関連製造装置市場



(出所)SEAJ(11年1月)日本製装置市場データに基づき当社作成
 (注)前回予想は、10年10月の11年3月期2Q決算発表時の見通し

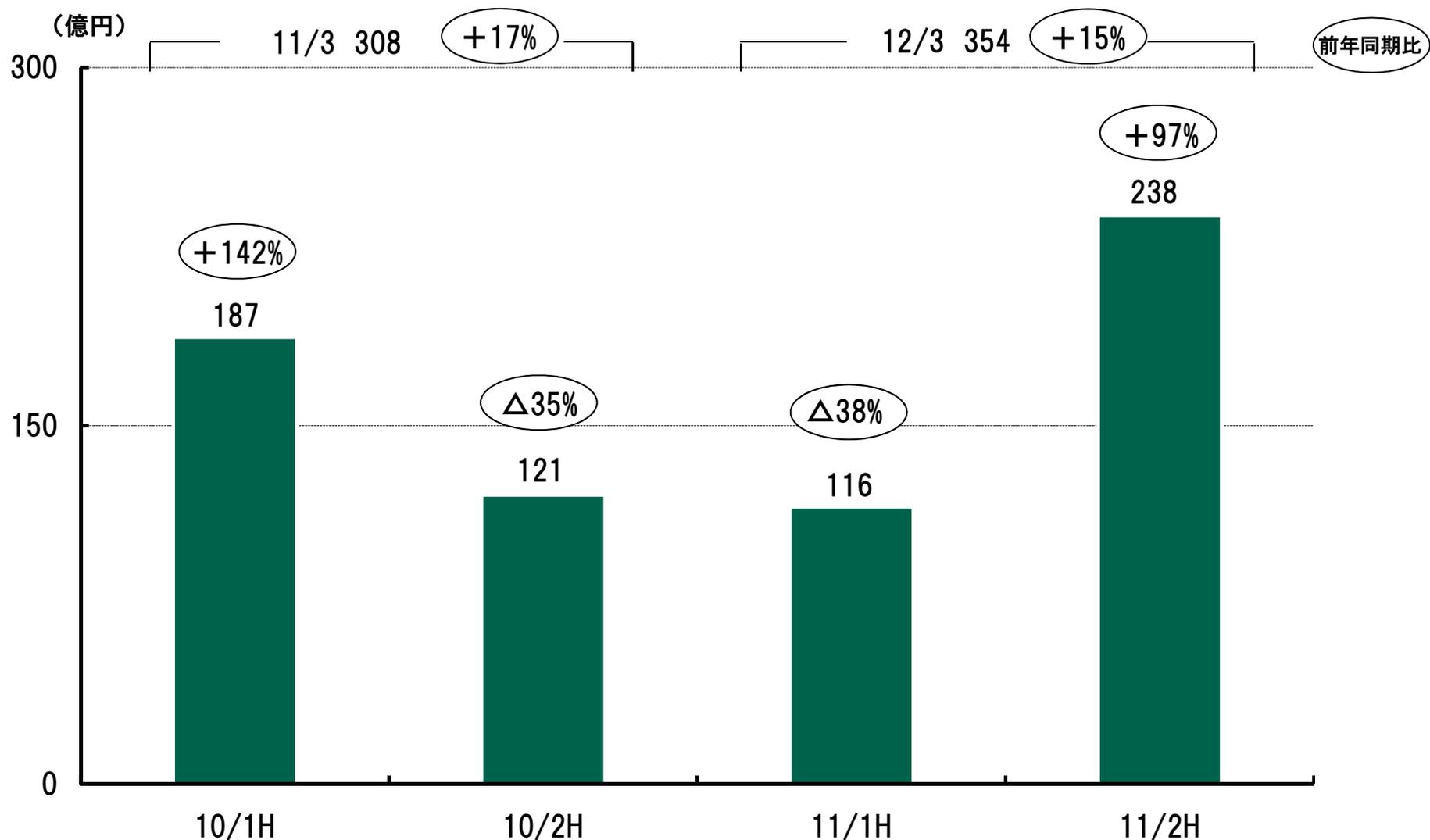
HD関連製造装置市場(当社関連)



(出所)当社作成

2012年3月期業績予想(ファインテックシステム)③

受注高の推移

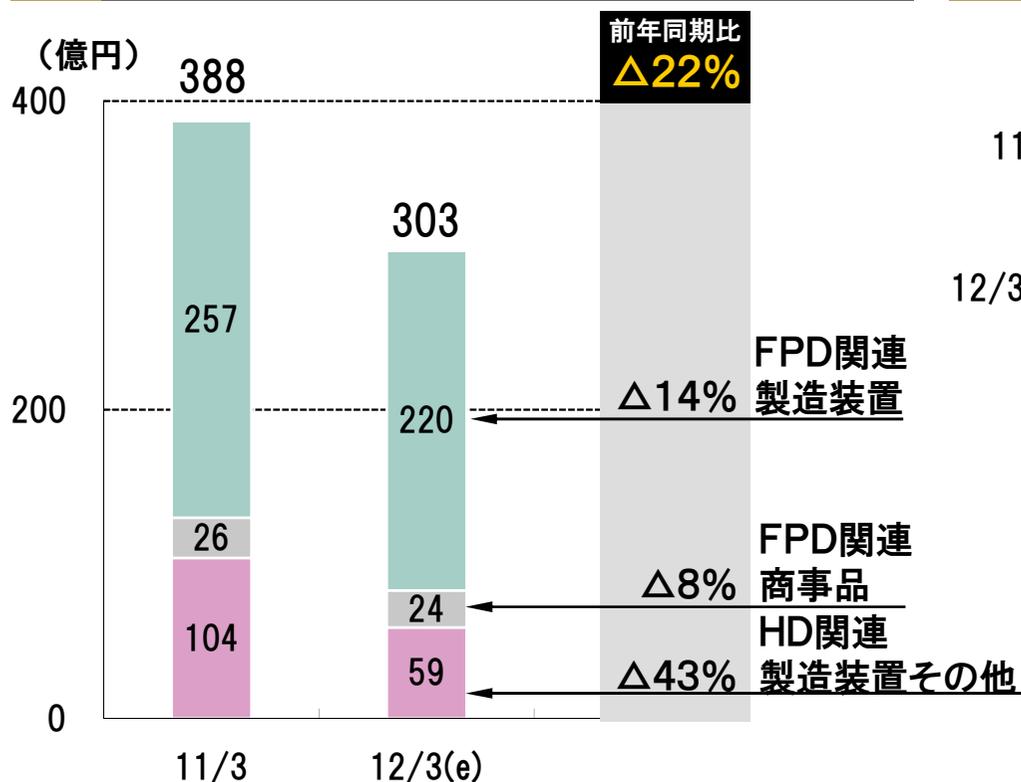


2012年3月期業績予想(ファインテックシステム)④

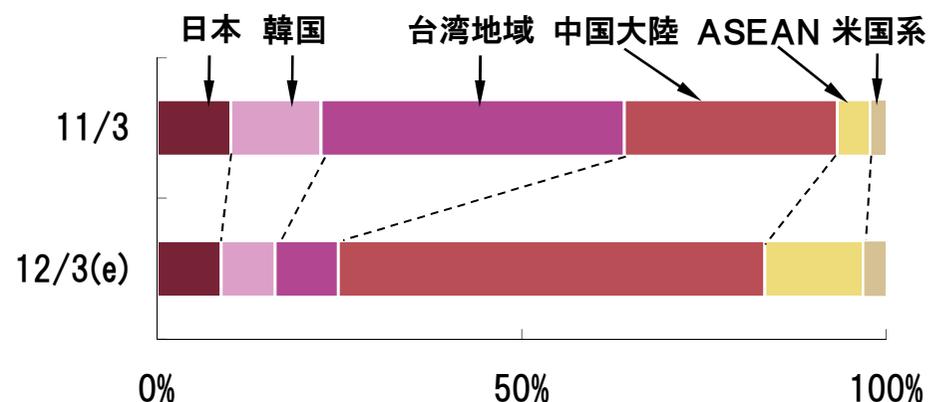
11年度基本戦略

1. 既存製品の競争力向上と新製品拡販による事業拡大(新型実装機・ハードディスク検査装置)
2. 新規事業の開発加速(有機EL製造・検査装置)
3. 市場変動に強い事業体制への転換(グローバル営業力強化・コスト競争力強化)

主要製品群別売上高の推移



地域別売上比率



- ・液晶関連の11年度の投資の中心は、中国大陆へシフト
- ・HD関連はASEAN地域が増加

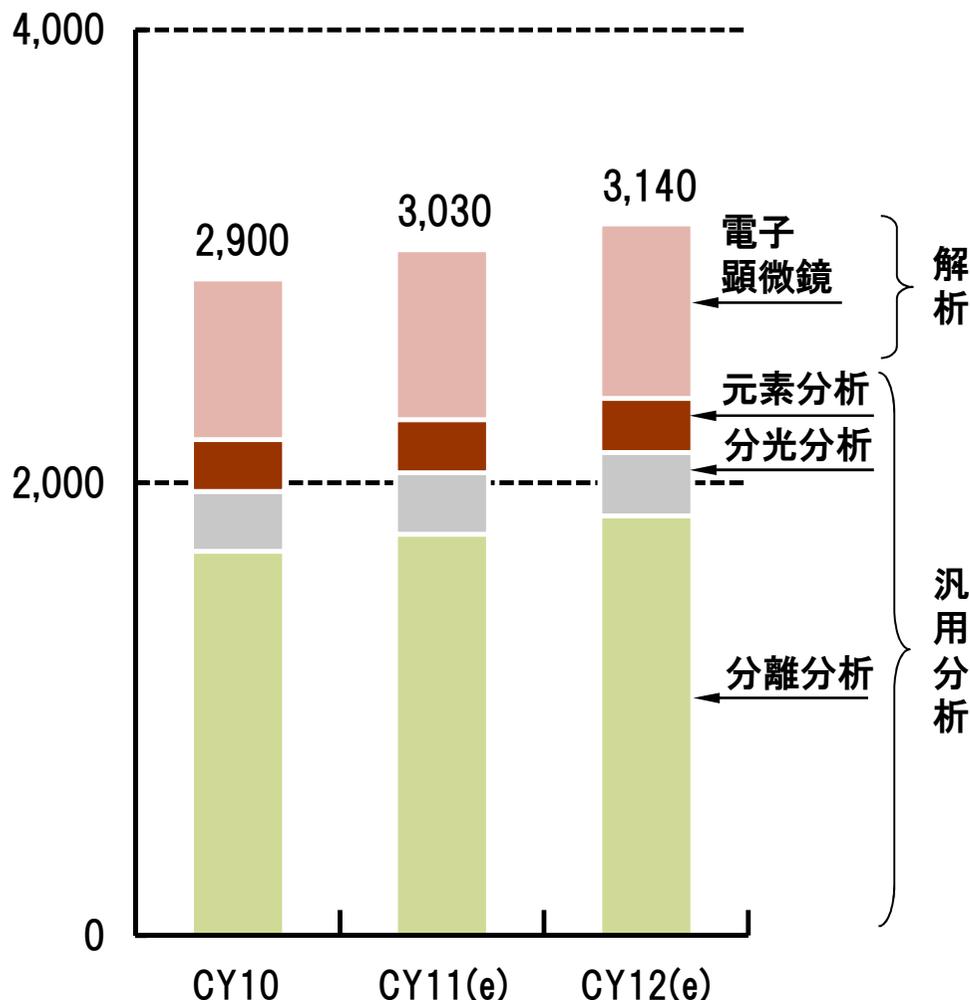
2012年3月期業績予想(科学・医用システム)①

分析関連事業

分析・解析装置市場(当社関連)

11年度事業環境

(億円)(売上ベース) CAGR 4%



解析装置

- ・リーマンショックによる景気低迷から民間マーケットの設備投資が回復傾向
- ・特に新エネルギー・新材料関連市場からの需要が増加

汎用分析装置

- ・汎用分析の中で、分離分析の市場規模が最も大きく、伸長率も年率5%と高い

市場における大震災影響

- ・大きな影響はないと予想

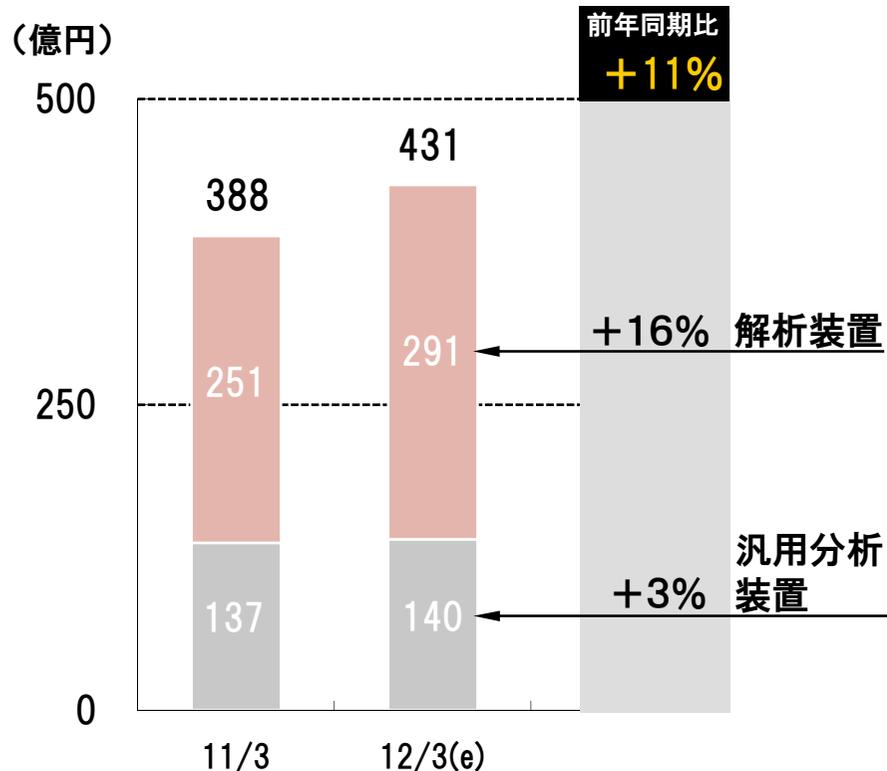
2012年3月期業績予想(科学・医用システム)②

分析関連事業

11年度基本戦略

1. 大震災からの早期挽回
2. 成長市場に対する新製品の拡販およびリソースの投入による売上拡大

売上高の推移



今後の取り組み

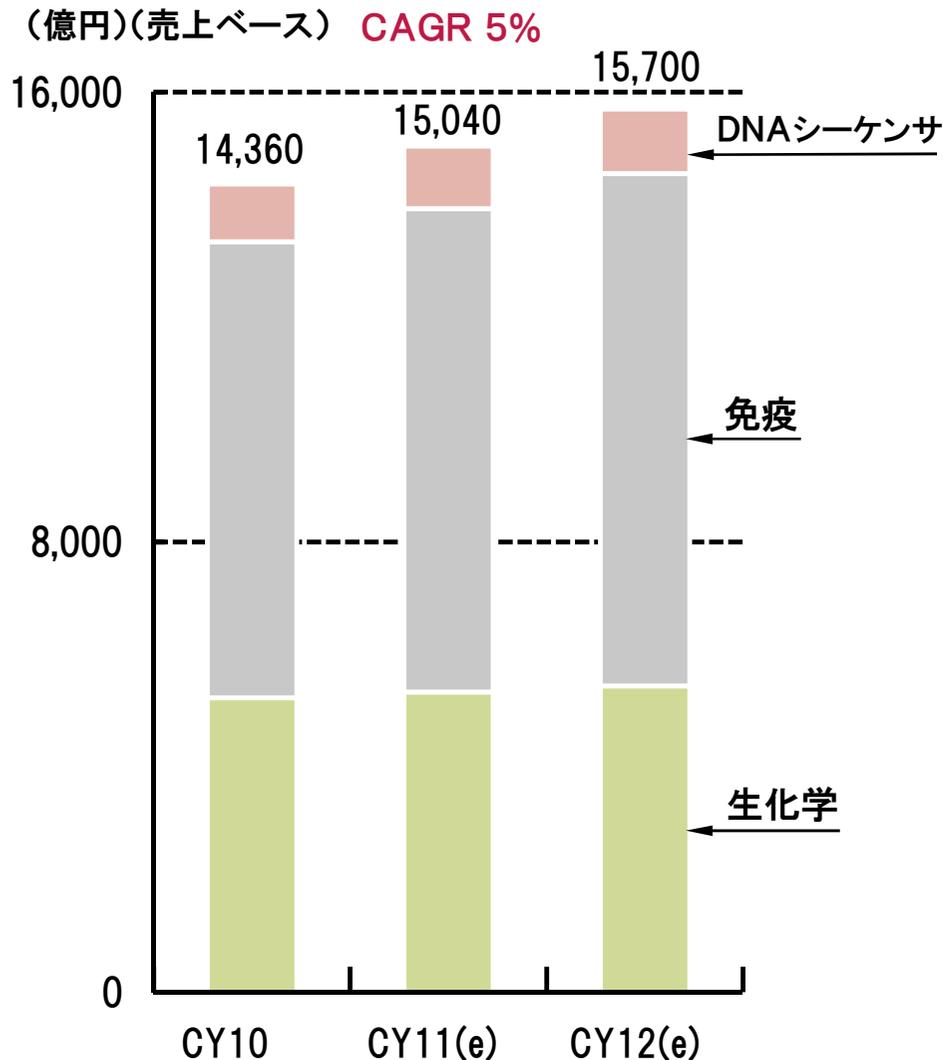
- 2Qからの増産体制による早期挽回
- 新型高分解能FE-SEMの拡販
- 新型液体クロマトグラフの製薬・食品市場向け拡販
- 中国市場へのリソース投入による売上拡大

2012年3月期業績予想(科学・医用システム)③

バイオ・メディカル事業

バイオ・メディカル市場(当社関連)

11年度事業環境



- 体外診断(生化学・免疫)
 - ・世界的な医療費抑制により、生化学分析市場ほぼ横ばい
 - ・免疫分析市場は年率6%成長を予想
- DNAシーケンサ
 - ・市場全体の伸びは年率6%を予想
 - ・第2世代シーケンサが市場を牽引
- 市場における大震災影響
 - ・大きな影響はないと予想

2012年3月期業績予想(科学・医用システム)④

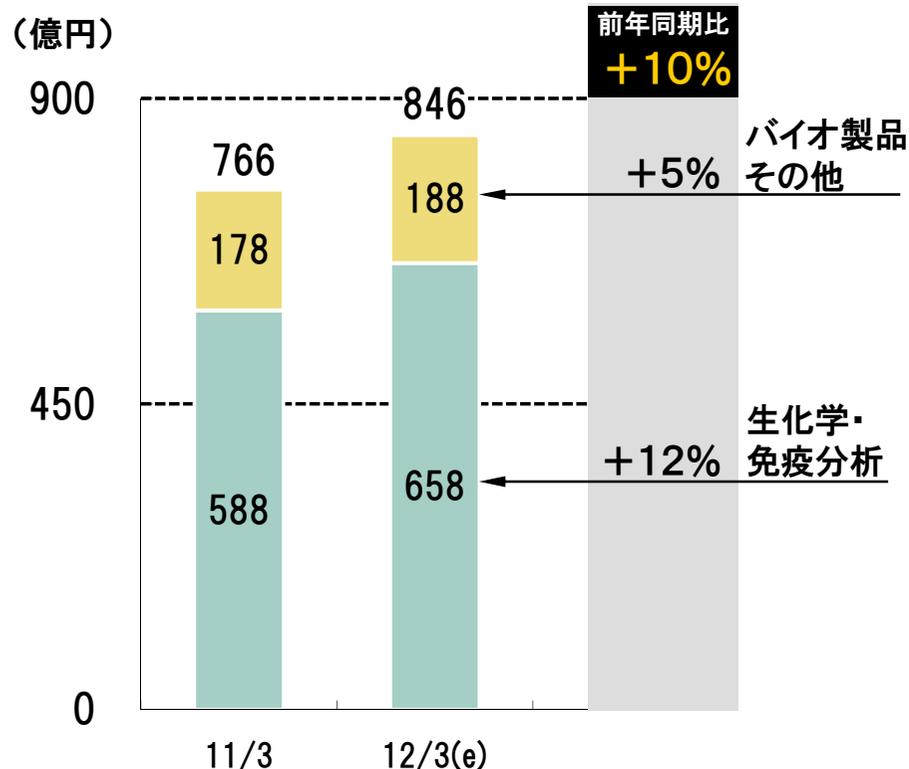
バイオ・メディカル事業

11年度基本戦略

1. 大震災からの早期挽回
2. 国内外の有カメーカーとのSCB*継続推進による事業拡大

*SCB: System Collaboration Business

売上高の推移



今後の取り組み

- 2Qからの増産体制による早期挽回
- 海外パートナーとの連携強化による新大型生化学・免疫分析統合システムの拡販
- 5500型DNAシーケンサによる第二世代機市場への参入

11年度基本方針

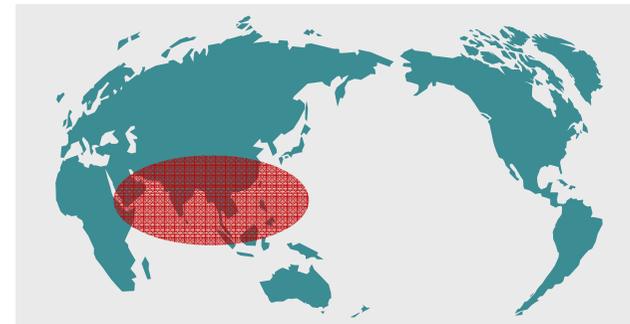
1. グローバルトップを目指せる事業分野へのシフト

- ・コアコンピタンスを生かした事業創造
- ・グローバル成長分野へのリソースシフトの加速化
- ・注力地域における現地有力パートナー企業との事業開発推進

2. 重点地域(アジアベルト地域)戦略の加速

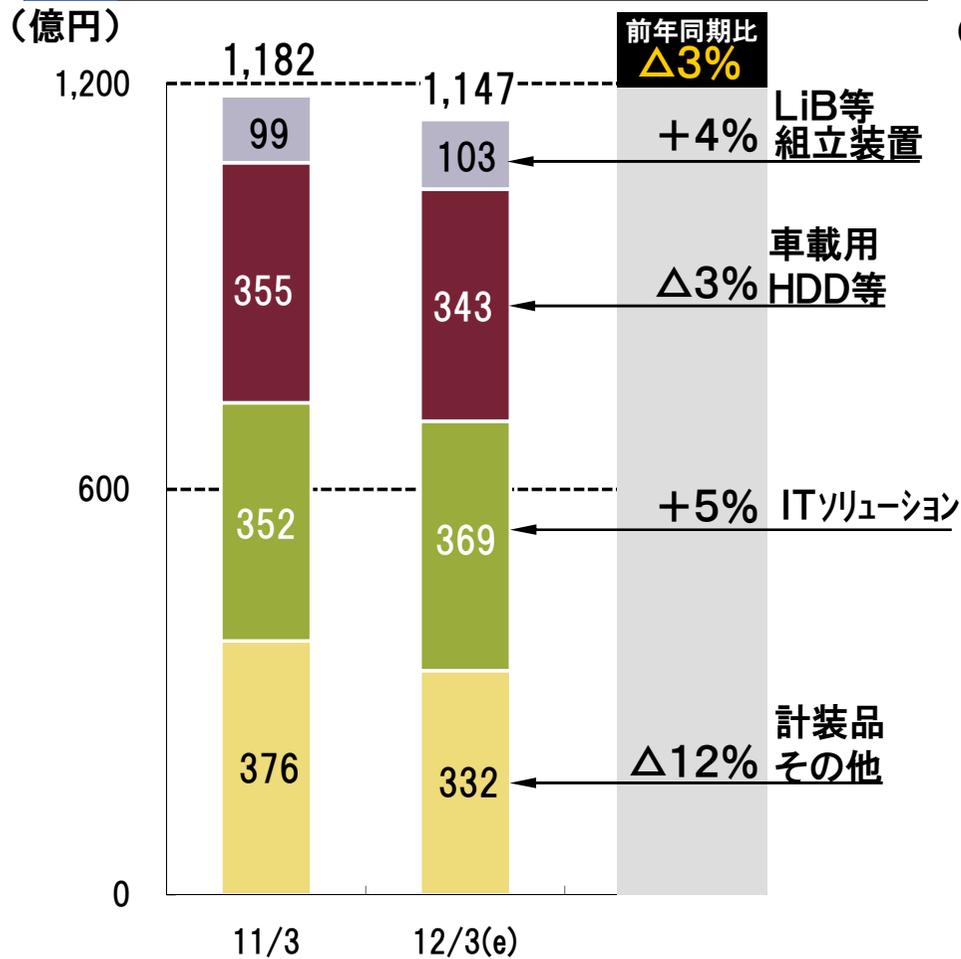
※アジアベルト地域・・・日本からアラビア半島に至るその間のアジア沿岸部
24カ国・地域

- インドネシアでの新エネルギー・水ビジネスの拡大
- インドでの自動車関連ビジネス・新エネルギー関連ビジネスの開発促進

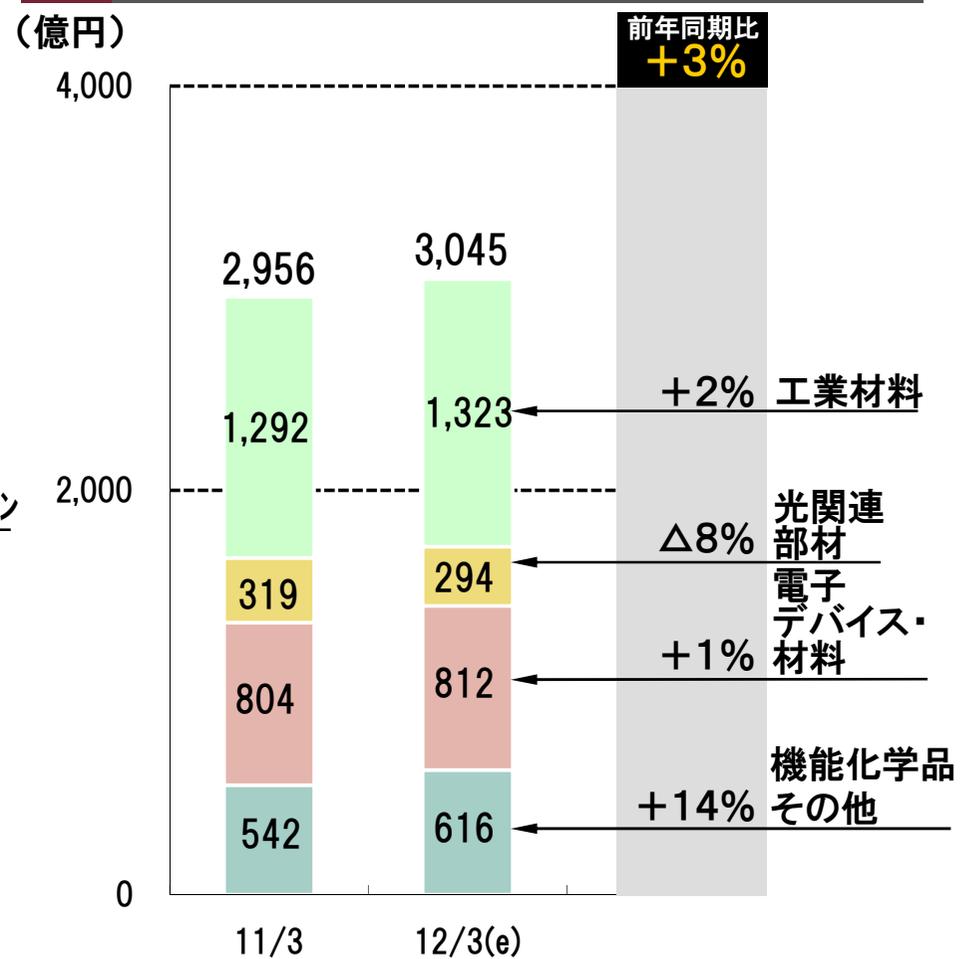


2012年3月期業績予想 (産業・ITシステム/先端産業部材)②

産業・ITシステム 売上高の推移



先端産業部材 売上高の推移



2012年3月期業績予想

(設備投資/減価償却費/研究開発費)

(億円)

| | 10/3 | 11/3 | 前年同期比 | 12/3(e) | 前年同期比 |
|-------|------|------|-------|---------|-------|
| 設備投資額 | 94 | 90 | △4% | 184 | +105% |
| 減価償却費 | 96 | 90 | △7% | 101 | +12% |
| 研究開発費 | 193 | 208 | +8% | 258 | +24% |

(注)設備投資額は取得ベースにて記載

前年同期比 増減説明

設備投資額： 94億円増加

- ・那珂事業所総合棟建設等

研究開発費： 50億円増加

- ・自社製品の要素技術開発等

<資料取り扱い上の注意>

- ・本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結であり、億円未満を四捨五入しています。
- ・当社が開示する将来の業績見通しや戦略等に関する予想は、開示時点で知りうる情報や合理的と思われる前提をもとに策定しており、さまざまな外部要因による直接的・間接的な影響により、実際の当社の業績等が開示内容と異なる可能性があります。但し、開示内容との間に大きな乖離がある場合は、法令や証券取引所が定める適時開示規則並びに当社の自主的な判断に基づき、その都度開示していきます。

また、この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

END

2012年3月期 業績予想説明会

お問合せ先
CSR本部 コーポレート・コミュニケーション部
部長 加藤 弘之
TEL:03-3504-5138 FAX:03-3504-5943
E-mail:kato-hiroyuki@nst.hitachi-hitec.com

日立ハイテク

最先端を、最前線へ。